

令和元年度学校地域 WIN-WIN プロジェクト
「商業の力で問題解決！」
 埼玉県立皆野高等学校・JA ちちぶ・皆野町



商業の力で地域の課題解決に取り組みました！



秩父地域は埼玉県北西部にある、自然豊かな地域です。それゆえに、**地域が抱える課題**もあります。

秩父地域の鳥獣被害

町	被害面積 (ha)	被害額 (万円)
幸町	5.1	1,050
秩父市	2.1	362
藤岡町	2.5	568
小倉野町	4.3	680
皆野町	1.9	382
合計	16.9	3,042

平成29年度秩父地域野生鳥獣による農作物被害の現状

イノシシやシカをはじめとする野生鳥獣によって、畑の作物が食べられてしまうなど**年間3,000万円以上もの鳥獣被害**が発生しています。



現在、皆野町では地元猟友会と協力して**箱罾を設置したり、電気柵などの購入費用を補助**することで対策をしています。



皆野高校では、その現状を踏まえ、**野生鳥獣の活用について考え、利益を地域に還元することを目的に活動**しています。しかし、商品の加工や販売を秩父市内で行っており、**皆野町の名物として機能していないという課題**がありました。



そこで、私たちは町おこしに協力するため「**皆野町の名物となるジビエメニューの開発**」に皆野町役場・JA ちちぶと協力して取り組みました。



まず、代表者2名が JA ちちぶ・皆野町役場との会議に参加しました。そこで、**道の駅みなの名物である「田舎うどん」と組み合わせたメニューの開発**を行うことが決定しました。



会議で提案する資料を作成しました。**具体的にイメージしてもらえことや、見た目の伝わりやすさ**を重視して資料を作りました。



第1回の会議で、**ジビエうどんに合わせる具材について考えてほしいという宿題**をもらい、メンバーで意見交換を行いました。



作成した資料をもとに具材の提案をしたところ、**時期や食材の価格、入手のしやすさ**などから、道の駅で販売している野菜を使い**季節に合わせたかき揚げ**を具材として合わせるというアイデアが採用されました。



「**しゃくしな**」や「**山菜の天ぷら**」、「**あゆの天ぷら**」など、秩父地域ならではの食材を使ったアイデアを出しました。



道の駅みなの内レストハウスにおいて、**試作品の試食会**をおこないました。検討材料を踏まえ意見交換し、**合い挽きの肉団子**にしたらどうか、合わせる割合で価格を調整したらどうかなど、**より具体的な案**について話し合いました。

PR方法の提案

8月26日
道の駅みなの
皆野高校・みちちぶ・皆野町

制作したポスター

提案したPR方法

新築社への取材依頼
秩父おもてなしTVへの出演交渉
秩父観光ネットへのポスター掲示依頼
地域団体の協賛などでの協賛
皆野町公式Instagramへの投稿

夏休み中、PR方法について考え、リーフレットの作成と提案資料の作成を行いました。
8月26日の会議でPR方法の提案を行うとともに作成したリーフレットに意見をいただきました。

販売日時決定

レストハウスみなの
田舎うどん

10月6日(日)
道の駅みなの7周年イベント
イノシカうどん 販売開始

10月6日道の駅みなの7周年イベントに合わせ、イノシカうどんの販売を開始することが決まりました。
その後の継続した販売については、第1回目の販売でのお客様の反応をみながら決定することになりました。

アクシデント

秩父地域において
豚コレラが確認された！
いのしかうどんの販売は延期に

販売開始を目前とした9月中旬秩父地域で豚コレラが確認されました。感染経路の可能性として野生のイノシシも挙げられ、対応の検討を余儀なくされました。
まず、10月6日に予定していた販売は延期され、その後の対応については後日会議を開くことになりました。

今後の対応について会議

11月19日
皆野町役場

今後のイノシカうどんについて
販売の中止が決定

中止を決定した理由

秩父地域でも2件の養豚場が豚コレラが原因で全頭処分を実施した。感染した豚やイノシシの肉を食べても人体に影響はないが、様々な状況を考慮すると、豚コレラ感染ルートの可能性が挙げられているイノシシの肉を使った商品を売り出すことはできない。

11月19日に、イノシカうどんの今後についての会議を行い、販売の中止が決定しました。
食肉利用以外でのジビエ商品の開発も提案しましたが、大切に育てた豚の殺処分を余儀なくされた養豚農家の現状や心情など、様々なことを考慮すると販売ができないという結論に至りました。

この取組から学んだこと

- アイデアをより良くするためには、会話を通じて、意見交換をしていくことが大切だということ
- 様々な要因から、準備してきたことがストップしてしまうことがあるということ
- ただ開発した商品を売るのではなく、周りの人々のことまで考えて行動をしなくてはならないということ

この取組を通じ、JA ちちぶ・皆野町役場の方々とは様々な意見交換を行いました。
企画した商品の販売はアクシデントにより叶いませんでしたが、沢山の経験をする事ができたと感じています。



学校地域WIN-WINプロジェクト実践研究

理療教育の理解啓発と東洋療法研修センターの推進

～県民・市民との校外応用実習・ふれあいマッサージを通して～



1 はじめに

本校は、県内唯一の視覚障害者の特別支援学校であり、川越市に位置し、明治41(1908)年2月15日、入間郡川越町、養寿院にて開校、創立112年目を迎えた幼児児童生徒数127名の学校です。

今回、高等部専攻科(職業教育課程)における「理療教育の理解啓発と東洋療法研修センターの推進」と題し、教育課程・校外応用実習を通じた、県民・市民とのふれあいマッサージ(WIN-WIN)の教育実践を紹介します。

2 専攻科の教育課程と校外応用実習

(1) 教育課程の概要

本校では、現代医学や東洋医学の基礎知識、あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの基本技術などを系統的に学習して、3年間を通じて、以下のような科目を学習しています。

【専攻科の教育課程】

分野	科目
基礎	社会保障、情報処理、保健医療福祉、コミュニケーション、運動学(保健体育)
専門基礎	人体の構造、疾病の成り立ちと予防、生活と疾病、医療概論、関係法規
専門	東洋医学概論、経絡経穴概論、あん摩マッサージ指圧理論・はりきゅう理論、臨床理療学・臨床保健理療学、理療経営・保健理療経営
	あん摩、マッサージ、指圧基礎実習、はり、きゅう実習、校外応用実習、校内臨床実習(治療室)、夏季校外臨床実習、総合演習、修了研究

(2) 校外応用実習(第2学年)

カリキュラムの中でも特に実技実習に力を入れています。第1学年であん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に必要な知識、態度、マナーを学習します。

実技実習においては基礎を生徒同士の実技授業として学習した後、第2学年の「校外応用実習」を行います。入学してから初めてとなる患者・利用者様への施術の実践授業です。

3 校外応用実習(第2学年)の指導計画・実践

(1) 指導計画

■4月から7月
校内において、医療面接(患者との挨拶、接遇等)、コミュニケーション概論、手技応用実技(あん摩・マッサージ)等の授業を通じて校外応用実習の準備期間です。

■10月から1月(校外応用実習の開始)
カリキュラムの中でも就労を念頭においた実技の実践授業です。生徒同士の実技授業として学習した後、「校外応用実習」を行います。

(2) 実践指導(WIN-WIN)

実習先としては地域との連携協力(WIN-WIN)を図り、県民・市民に対して専攻科を知っていただく啓発活動の場ともなっています。

①かすみ野自治会における地域住民

・朝から頭痛があったが、肩のほかに頭のマッサージもしてもらい目の痛みがとれた。
・マッサージのレベルが分かり、今後機会があれば受けてみようという主婦になった。
・鍼について教えてもらったので今後行ってみたい。

②いかなかった点(患者・利用者)
・言葉が少なかった。 ・肩は少し力が弱かった。
・もっとアドバイスのようなことを頂けると良い。
*重複する内容については載せていません。

③生徒の感想・意見
・実習を通じて、コミュニケーションが大事なことを痛感し、実践経験ができた。
・お年寄りに対する声掛けの仕方やコミュニケーションの実践を経験できた。
・企業において、幅広い年齢層と接すること、異性に対するの施術経験がなかったので勉強になった。 ・技術の向上を実感できた。
・実習で得た症例を後日授業でフィードバックしてもらえて、今後に活かされる。
・様々な症例をクラスメイトで共有できたことは意義ある実習である。
・評価シートについては、適切な項目だと思う。自分の施術技術がよくわかる。

(2) 課題

①校外応用実習の教育的意義を高めるために「実習評価シート」のさらなる改善が求められる。

②また、患者・利用者様に対する接客マナーの指導法も課題の一つと考えられる。

③そのためにも、実習前指導、実習前試験の導入も検討課題である。

(表1) 実習評価シート

実施施設: _____ 実施日時: ____月 ____日

【実習の目的】

- ・あん摩マッサージ指圧師としての態度・マナーを身につける。
- ・コミュニケーション能力を養う。
- ・他人に応じた力加減で、マッサージを行う技術を身につける。

上記、実習目的に沿って、以下の質問についてお答えください。(〇はそれぞれ1つ)

	満足	どちらかといえば満足	どちらともいえない	どちらかといえば不満足	不満足
あいさつ、言葉づかい(明るく、はっきり等)	5	4	3	2	1
もんでほしいところに、手がうまく当たっていた	5	4	3	2	1
力加減	5	4	3	2	1
総合満足度	5	4	3	2	1

性別 男 女 施術部位 首 肩 腰 脚 その他

年齢 20代~30代 40代~50代 60代 70代 80代以上

・今回の取り組みに対し、ご感想やアドバイス等ございましたらお書きください。

良かった点 _____

いらなかった点 _____

ご協力ありがとうございました。

②企業(BML)の社員
③医療機関(西部診療所)の患者、利用者
④大学(東京国際大学)の教職員
また、就労支援課と協力し、ワークフェアin浦和(9月12日)においてマッサージ体験の運営を実施しています。

その他、霞ヶ関公民館における敬老マッサージ実習(10月24日(木))、県庁オープンデー(11月14日)、特別支援学校職業教育フェア(2020年1月)に参加し、マッサージ体験の運営を通じて、「県民・市民とふれあいマッサージ」(WIN-WIN)を実施しています。

実習先では、生徒は現場を体験するという、より実践の実習であります。介護保険業務における機能訓練指導員、企業における社員の疲労回復やフレッシュ(ヘルスキーパー)を目的に施術を行います。

多くの職種と連携し、実践しています。この実習は、生徒一人一人の進路・卒業後の進路を検討する際に重要なものとなっています。

4 実習先の様子



かすみ野自治会校外応用実習

BML(企業)校外応用実習

県庁ふれあいマッサージ

つぼ健康でめい



敬老マッサージ実習

職業フェアin浦和コロン

県庁マッサージで活躍するつぼんこぼたん

5 指導の評価とその課題

(1) 指導の評価

実習先では、表1のような「実習評価シート」を作成し、患者・利用者様に施術直後に記載していただき、施術者である生徒に対する評価方法として活用しています。評価表はその場で生徒に聞かせ、フィードバックし、必要に応じて、その都度の施術に活かしています。実習指導の効果を高め、教育的意義ある「評価シート」となっています。

以下に、実際に施術させていただいた患者・利用者様からの主な「感想・アドバイス」及び「生徒の感想・意見」を記載します。(WIN-WIN)

①良かった点(患者・利用者)
・全くはじめてだったのでとても気持ち良かったです。
・感激!県内いたるところで実施されると良いと思います。
・学園について知らなかったがよく理解できた。近くに開業したらぜひ行きたい。

6 視覚障害者の3つの障壁とその指導

校外応用実習を通じて、以下の3つの障壁が改めて確認されました。

- ① 歩行、移動に関する障壁
学校においては単眼鏡の使用、白杖を用いた歩行訓練等の指導が行われています。
- ② 情報に関する障壁(視覚から入る情報は90%と言われる。)
点字指導、音声・パソコン指導等による情報不足を補う補完授業を行っています。
- ③ コミュニケーション力の不足
新科目として「コミュニケーション概論」を創設し医療面接等の指導を行っています。また、相手の目を見て話す聞くこと等、その場に応じた会話ができるよう指導を重ねています。

7 進路・卒業教育の重要性(3つの障壁を改善を模索して)

(1) 東洋療法研修センター設置の経緯

高等部専攻科を中心とした職業教育の在り方「視覚障害のあるあん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師(今後、あはきと表記する)」として、卒業研修に焦点をあて、卒業生への支援を充実するための「東洋療法研修センター(今後、センターと表記する)」設置に向け、過去10年間の専攻科卒業生に対するアンケート調査を実施し、実態把握を行いました。

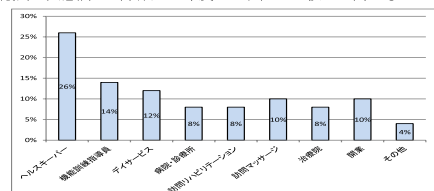
平成17年度から平成26年度までの専攻科卒業生76名に対し、郵送・電話等により実態調査を行いました。有効回答率は91%(76分の69)、以下のような回答を得ました。

①有効回答者(69名)の内訳
・性別 男性56名(81%) 女性13名(19%)
・年齢 20代7名(10%)、30代16名(23%)、40代27名(39%)、50代12名(17%)、60代7名(10%)

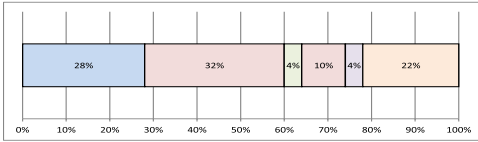
②現在の仕事
ア 有効回答者69名のうち、現在就業しているものは50名(72%)であり、その仕事の内訳は、次の通りです。

イ 現在の仕事
有効回答者69名のうち、現在就業しているものは50名(72%)であり、その仕事の内訳は、次の通りです。

グラフの左側から、ヘルスキーパー13名(26%)、機能訓練指導員7名(14%)、デイスーパー6名(12%)、病院・診療所(診療報酬関係)4名(8%)、訪問リハビリテーション4名(8%)、訪問マッサージ5名(10%)、治療院勤務4名(8%)、治療院開業5名(10%)、その他2名(4%)であった。本校卒業生は、全国平均(平成27年度50%)、関東甲信越地区盲学校養成施設進路指導協議会の実態調査(平成25年度42%)と比較して高いものでありました。



ウ 現在の仕事の満足度



現在就業している対象者50名の仕事の満足度に対する結果は、次の通りである。グラフの左側から、満足14名(28%)、やや満足16名(32%)、普通2名(4%)、やや不満5名(10%)、不満2名(4%)、記述無し11名(22%)であります。この結果から、「満足、やや満足」の合計が30名(60%)「不満、やや不満」の合計が7名(14%)であったことは、希望に応じた進路を実現する指導の結果だと思われます。

エ 自由記述による学校に対する意見、要望(アンケート結果から)

- 「あはき教育の向上」について
 - ・卒業後も、あはきに関する質問に答えて頂いた。
 - ・卒業後に研修の要望に応える場が欲しい。
 - ・卒業後すぐに働くことが多く、勤務実態として1人職場もある。校外臨床実習の中で実践的に学ぶことができた。
 - ・卒業研修などでは、現場で実経験を積んでいる修了生を講師として迎えるなど、基礎教育との違いが明確になるような工夫をしてもらいたい。
- 「学校機能の向上」について
 - ・卒業後の研修があるとよい。
 - ・就職先により必要な知識や技術は異なる。進む方向が決まっている人なら、卒業前に専門的な技術を学ぶ事ができたらよい。校外臨床実習は大変役立つ。

オ 実態調査から

卒業生の実態調査からも現状の教育課程は一定の評価を得る結果となっています。生徒一人一人の声、将来の希望、夢を大切に、生徒の「自己発進力」を育てる教育実践を目指していきたいと考えています。

また、教育実践の成果を踏まえつつ、職業教育充実を目指し、本校の教育課程を見直すと共に「卒業臨床研修」の必要性が高まったものです。

8 東洋療法研修センターの推進・設置・運営

- 平成30年度より設置・運営を開始。
平成30年度は2名、令和元年度は1名の研修生を受け入れました。
- 設置の目的
高等部専攻科を修了した者の理療教育・臨床教育を推進する拠点としての研修等の事業を行います。また「視覚障がいのあるあはき従事者」の臨床能力の向上と、理療の普及啓発のために必要な事業を行います。
- 運営方針
東洋療法研修センターの設置目的に基づき、その機能を発揮するために、理療教育の充実及び理療従事者の臨床能力の向上に役立つように、計画的、総合的に事業(機能)を推進します。
- 研修場所：本校106教室(機能訓練室)

(5) 主な機能

- 専攻科修了生の研修の場としての機能
理療従事者の資質向上を図るための研修講座の開催や修了生の相談・支援および情報提供の事業を行っています。
①あはき関係研修会の開催
②「専攻科臨床研修生」の受け入れ等
これまでも実践してきた卒業後支援を発展させ、就職・開業に向けた研修、転職支援、再教育等、個別のニーズに対応した臨床研修を行っています。
- 現職教職員の研修の場としての機能
理療技術の進歩に応じた理療教育を実践するため、臨床研修、進路に関する調査・研究およびこれらを通しての理療科教員の研修を行っています。
- 県民・市民への情報発信・啓発の場としての機能
地域住民に対してマッサージ体験、健康講座等の企画、運営を行い、理療に関する理解・啓発を図っています。
①県医療整備課「新任医師担当者研修会」への協力
②地域住民に対する「敬老実習」等の取り組み
③県民・市民への東洋医学健康講座の開催

(6) 研修生受け入れの実践事例

平成30年度は2名の研修生を受け入れました。
うち1名は、前年度(平成29年度)の専攻科修了生であり、本校幼稚部からの学齢生徒でありました。あん摩マッサージ指圧師免許は取得したが就労等に課題のある生徒でありました。1年間の臨床研修、職場研修等の後、研修生の近隣の「特別養護老人ホーム」へ就労することができました。(WIN-WIN)

(7) 専攻科修了生の就労先

*以下の数字は、2か月から1年間の研修期間を経て就職した卒業生を含む。

職種	キーパーヘルス	サイバーデイ	治療院	診療所	病院	開業準備含む	老人ホーム	特別養護	理療科教員	療養中	受験準備	その他
人数	14	7	3	2	4	2	2	2	2	1	4	

【年度別就職先一覧】

年度	名称
2016	ヘルスキーパー：NECソリューションイノベータ(株)、パーソルサンクス(株)、SAPジャパン(株)、(株)E.P.B.、(株)サイバーエージェントウィル
2017	ヘルスキーパー：(株)サイバーエージェントウィル、(株)E.P.B. デイサービス：羽浜の里、デイサービスセンターきらら、介護のさくら 特別養護老人ホーム：みどりの丘 治療院：訪問マッサージ専業 開業
2018	ヘルスキーパー：(株)Line 職員：埼玉県立特別支援学校鳩保一学園 治療院：アッピー治療院

行こう! ちかしんぞん **地下神殿へ行こう!!**

2-6 伊藤佳蓮 2-3 渡辺真衣 2-9 山内あさぎ 2-3 鈴木美咲

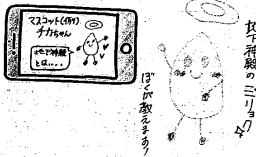
春日部にある、首都圏外郭放水路に人を集めるためには、どうすればいいか考えました。

提案① 首都圏外郭放水路のアプリを分かりやすくする。

【理由】 アプリを利用する時に、水が流れていることと分かりづらく、もっとわかりやすく、興味を持つアプリにしたいと思ったから。

例えば.....

- 地域に募集し、2D/3Dで作って、わかりやすく説明はせよう!
- ホムページへアプリを載せよう!



提案② イベントを開催する。

【理由】 首都圏外郭放水路には、水がたまるない場所の他にも、外にグラウンドがあるのだから、イベントを開催すれば、たくさん人が集まると考えたから。

例えば.....

- 夏休みに開催し、小学生向けの自由研究講座をひらく!
- SNSを利用して、宣伝する!

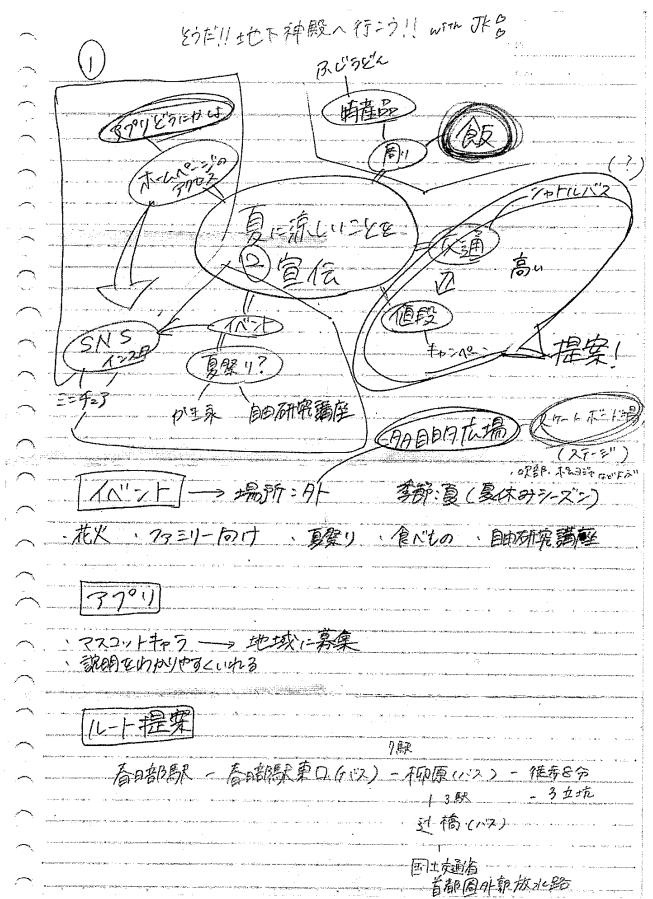
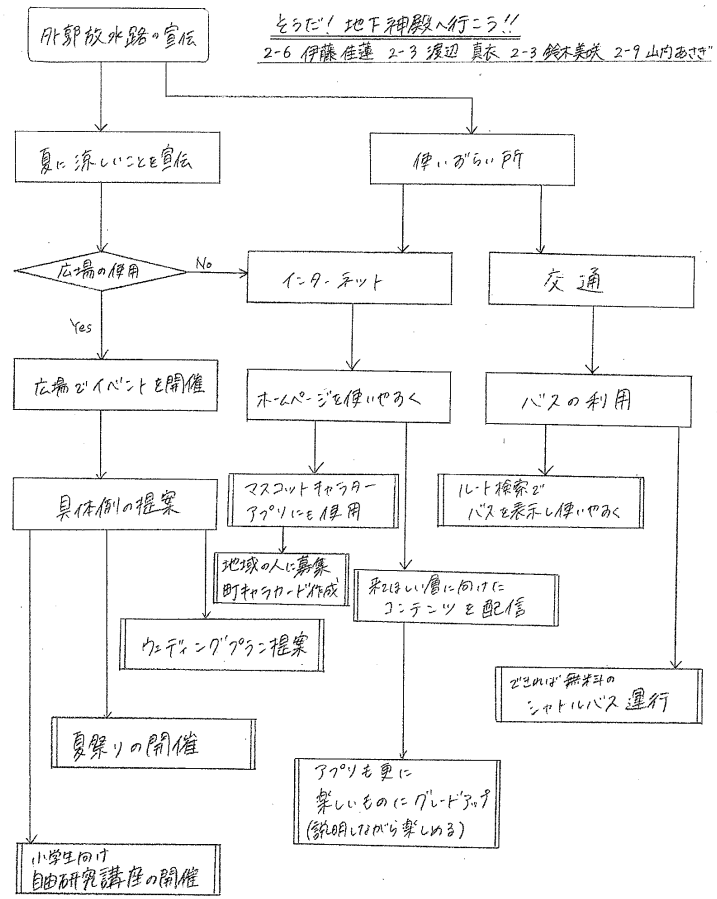
提案③ 無料のシャトルバスを運行する。

【理由】 首都圏外郭放水路の入場料が高く、駅からのバス代がかかるのだから、バスがありがたいと思えば、

利用しやすく! **料金が下がれば行きやすい!**

まとめ

地下神殿と呼ばれる、春日部と水害の救済に外郭放水路。私たちが思っている作業は、実際に実現するまでには、いろいろな工夫が必要。もっと多くの人に動いてもらいたいと思っています。



令和元年度
「学校地域 WIN-WIN プロジェクト」
実践報告書
埼玉県教育委員会

令和2年3月発行

編集 埼玉県教育局市町村支援部生涯学習推進課

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1

電話 048-830-6979

FAX 048-830-4964

E-mail a6975-05@pref.saitama.lg.jp

WIN
PROJECT
WIN